

■ 教育目標「学び合い 高め合い とともに伸びる子」



佐渡市立七浦小学校

学校だより

令和2年7月27日発行
学校だよりNo.5
佐渡市立七浦小学校
佐渡市稲鯨1312番地
Tel: 0259-76-2322
Fax: 0259-61-4955
mail: nanaura-es@sado.ed.jp

♪令和2年度より七浦小学校はコミュニティ・スクールとなりました♪

「正しい」努力

校長 山口 明美

プールから子どもたちの歓声が聞こえない夏です。「夏休みになったら〇〇に旅行に行くよ」「夏休みになったら、〇〇から親戚の人が来るよ」といった声も聞かれません。日に日に賑やかさを増すセミの鳴き声と、クワガタやカブトムシについて話す子どもたちの会話からようやく季節を感じるすることができます。新型コロナウイルス感染拡大により学校も未知の夏休みを迎えそうです。

私は水泳が大の苦手です。自由形で泳げば口から水が入り、息継ぎがうまくできません。平泳ぎは一向に前に進まず沈んでいきます。背泳ぎは曲がって進みコースロープが行く手を遮ります。そんな私が、6年生の時に水泳の選手に選ばれました。ましてやりレーまでやらされることになったのです。練習中はそんな自分をごまかすようにへらへらしていました。先生からは「何へらへらしているんだ。しっかり泳げ！」というお叱りの言葉を受けるだけ。今思い返せば、あの時の私は、自分一人だけできない時にどうリアクションすればよいか分からなかったのだと思います。勉強や運動、対人行動等で苦戦する子どもたちには、私と同じようにへらへらする子どももいれば、逆ギレする子、泣き出す子など様々ですが、私の原体験から考えると、それはやる気がなく不真面目だからではありません。みんなと同じスタートラインに立てていないから、どうしてよいか分からず困惑しているのだと思います。



苦手さはどの子にもあります。ほんの少しのヒントやコツを伝えるだけで子どもは伸びる力をもっています。大切なことはすべてを手取り足取り教え込むのではなく、その子に合ったヒントやコツをいくつか伝え、実際にやってみて、自分なりのやり方を発見する、気付かせることだと思います。不適切な努力を押しついたり、努力しなさいと説教したりするだけではなく、その子にとっての正しい努力の方向を示してあげることが教育の役割だと言えましょう。夏休みには、お子さんと一緒に課題に取り組まれるご家庭も多いと思います。参考にしていただけたらと思います。

余談ですが、私が受検した教員採用試験の翌年から、水泳が実技検査に加わりました。受検が1年遅かったら私はこの場にはいなかったかもしれません。